名古屋国税局長賞

命を救う

名古屋市立沢上中学校
３年　松下舞桜

私は生まれてまもなくNICUに運ばれた。呼吸が弱かったため一切泣くことがなかった。血液は私の体内から母の身体に逆流し、当時の担当医師に論文に書けると言われたほど珍しく原因不明の病態だった。二週間のNICUでの治療と約一年の通院を経て、今では健康に過ごしている。

ところで、この治療には一体いくらの治療費がかかったのだろうか。NICUに入るだけでも一日あたり八から十万円ほどかかる。全治療費を考えると、およそ数百万円にも及ぶ。では、この治療費は私の両親が全額払ったのであろうか。実際に私の両親が払ったのはミルク代とオムツ代だけであり、残りは名古屋市や愛知県の税金から助成されている。

このように名古屋市では現在、十八歳までの子供にかかる医療費を一部を除いて無料化している。これにより大切な若い命を助け、同時に貯金が少ない若い親の世代の家庭を守ることができる。また、医療費はどの年齢でも税金で負担が少なくなっている。七十歳未満は三割、七十歳から七十四歳は二割、七十五歳以上は一割を自己負担する。人間誰しもが年を取るにつれて医療費がかかるが、そのほとんどは税金で賄われている。

そうはいっても私たちは高い税金に悩まされていることも事実である。実際、私の医療費が税金で賄われていることに対して税金のありがたみを感じていた一方、毎年確定申告の時期になると私の家では負の空気が流れる。「税金が高い」「税金でお金が出ていくからできるだけお金を使わないように」そんな会話が飛び交う。確かにその時期はつらいかもしれない。けれど、人一人の命を救うのに時には何千万円ものお金が必要なこともある。それが、自分や親、兄弟、子供、孫の身に降りかかったと考えたらどうだろう。見方が変わるのではないか。生きているうえで病気は隣り合わせにある。自分の身近な存在の命をつなぐということを考えると、税金の大切さやありがたさを身に染みて感じることだろう。

この夏、税について考える機会をいただき私の生い立ちについて思い出した。両親は税金によって私が助けられ、経済的にも精神的にもどれだけ税という存在が心強かっただろうか。これを機に税の大切さを知り、改めて税を納めることの重要さを思い知った。私のように税金について深く考えるきっかけをより多くの人が持つようになればいいなと思う。今私は、医療費や教育費など税金に助けられているばかりで消費税ぐらいしか身近にはないが、大人になった時には税金をきちんと納めてこの国の未来を支えていきたい。